

5/8 5.25

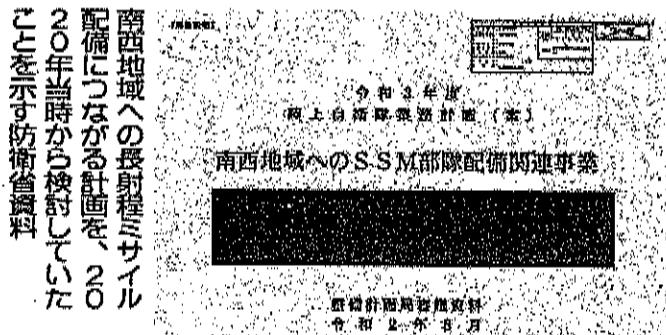
12式地対艦誘導弾

南西地域への配備前提

穀田議員への提出資料で判明

岸田政権が敵基地攻撃能力の一環として導入を進め
る12式地対艦誘導弾(SSM)をめぐり、防衛省が20
20年当時から、南西地域

に配備先となる恐れがある
ことが改めて浮き彫りとな
りました。



南西地域への長射程ミサイル配備についての検討を20年当時から行っていたことを示す防衛省資料

縄地区(?)の防衛態勢の強化(編成・施設整備)など70ページ余に及ぶもの。

内容は大半が隠密です

示されています。

討・具体化してきたことが

が、政府が20年末の閣議でSSMの射程を大幅に延ばし、敵基地攻撃が可能な「スタンダード・オフ・ミサイル」として開発する方針を決定したことを機に、防衛省では南西地域への配備を開始します。SSMについて、今年度から量産に着手し、早ければ26年度にも部隊配備を開始するとしていますが、配備先は一切明らかにしていません。

日本に戦火呼び込む

資料は、防衛省内で自衛隊部隊の配備や施設整備を担当する整備計画局が、陸上自衛隊の業務計画を審議員会での質問(5月31日)するに当たり作成した「南西地域への長射程ミサイル配備についての計画を、2020年当時から検討していた」と書かれたSSMを射程100km以上に長射程化しよ

日本共産党の谷田恵一衆院議員の話によれば、まさにそのためのもの

です。日本に戦火を呼び込む大軍拡計画を許さないたかいを強める必要がありま